

中等教育研究開発室年報 第35号（2022年3月31日発行）別冊電子版
2021年度 授業実践事例

芸術（美術）科 高等学校第Ⅰ学年

美術作品の新たな価値を発見しよう！

授業者 森長 俊六

（教育研究大会 公開授業）

広島大学附属中・高等学校

高等学校 芸術科（美術） 学習指導案

指導者 森長 俊六

- 日時** 令和3年11月27日（土） 第1限 9:30～10:20
- 場所** 美術教室
- 学年・組** 高等学校I年 選択ア組 29人（男子14人 女子15人）
- 題材** 美術作品の鑑賞
- 目標**
1. 造形要素だけでなく、幅広い視点で鑑賞できる。（知識及び技能）
 2. 互いの解釈の違いを尊重し合い、批判的に鑑賞するなど独自の価値意識を持って見方や感じ方を深める。（思考力、判断力、表現力等）
 3. 作品の面白さや美しさ、作者の意図などに関心を持ち、主題と表現の工夫などの理解に意欲的に取り組む。（学びに向かう力、人間性等）

指導計画（全4時間）

- 第一次 表現とは何かについて考え、さまざまな鑑賞の視点を知る。 2時間
- 第二次 さまざまな見方・考え方をふまえて作品を鑑賞する。 2時間（本時 1/2）

授業について

作品を鑑賞するとき、作品から直接伝わる色や構図などの造形要素だけでなく、直接的には伝わるのが困難な情報を得ることは、鑑賞を深め作品を楽しむための手法の一つである。その情報とは、作品の由緒来歴や作者の生い立ち、当時の社会的背景、慣習などである。また、現代美術においては、コンセプト自体が表現の重要な要素であるものも少なくない。この授業では、そのような様々な視点で鑑賞する力を養うことで作品の見方を深めるとともに外部から得た情報や多様な鑑賞の視点を知識として蓄積するだけでなく、自分の解釈を加え、想像力を働かせて自分の言葉で他者に語るができるという力を身に付けさせたい。自分の解釈を加えるという過程では、探究活動として独自の視点で批判的な分析を試みさせたい。そのためには他者の見方を尊重しながら作品に親しむという対話を取り入れることも重要である。また、幾つかの鑑賞の糸口を知ることは、逆に自由な発想を制限しかねないという懸念も生じるが、その壁を乗り越えて自由に感じたことや考えたことを発言できる環境も醸成したい。

題目 美術作品の新たな価値を発見しよう！

本時の目標

1. 互いの解釈の違いを尊重し合い、批判的に鑑賞するなど独自の価値意識を持って見方や感じ方を深める。（思考力、判断力、表現力等）
2. 作品の面白さや美しさ、作者の意図などに関心を持ち、主題と表現の工夫などの理解に意欲的に取り組む。（学びに向かう力、人間性等）

本時の評価規準（観点／方法）

1. 互いの解釈の違いを尊重し合い、批判的に鑑賞するなど独自の価値意識を持って見方や感じ方を深めようとしている。（思考力、判断力、表現力等／生徒観察、ワークシート）
2. 作品の面白さや美しさ、作者の意図などに関心を持ち、主題と表現の工夫などの理解に意欲的に取り組もうとしている。（主体的に学習に取り組む態度／生徒観察、ワークシート）

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導内容と指導上の留意点
作品1の鑑賞(個人) (5分)	○新たな鑑賞の視点として岡本敦生の作品を鑑賞する。 ・色や形, 全体のイメージから作者は何を表現しようとしたのか考え, ワークシートに記入する。 乱立する円柱, 色はさまざま 共通点—同じ太さ, 形 相違点—角度, 色(同じ色もある) ・タイトルや設置場所を手がかりに考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">興味をもつ</div>	○広島空港にある岡本敦生の作品を提示し, 作者の意図や作品の意味を考えさせる。 ・ワークシート配付 ○鑑賞の視点(ヒント)を提供する。 ・題名や設置場所の情報 題名「地球・一個の球体のために」 この作品の場合, 設置場所が重要な意味を持つことを押さえる。 ・円柱の共通点, 相違点, 本数, 円柱の設置ぎわの形にも注目させる。
作品1の鑑賞(グループ) (10分)	○グループ内で意見を出し合う。 ・他者の見方・考え方を尊重する。 ・気になる点, 疑問に思った点を述べる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">話しあう</div>	○作者の岡本敦生にオンラインで登場していただく。 ○自由に感じたことや考えたことを発言できる環境づくりに努める。
作品1の鑑賞(全体) (15分)	○作者の意図や表現の工夫などをグループの人の考えもふまえ自分の言葉で語る。	○作者には生徒の質問に答えていただき, 必要に応じて関連情報などの解説もしていただく。 ・作品に近寄る(拡大図) ○生徒の解釈や考えを尊重する。
作品2の鑑賞(個人) (5分)	○作品2を鑑賞する ・形や材料, 全体のイメージから作者は何を表現しようとしたのか考え, ワークシートに記入する。 ・タイトルを手がかりに考え, ワークシートに記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">読み取る</div>	○授業者の作品を提示し, 作者の意図や作品の意味を考えさせる。 ○鑑賞の視点(ヒント)を提供する。 ①題名「地球・46億年の歴史」 ②本数「46本」 ③作品に近寄る(拡大図)
作品2の鑑賞(グループ) (5分)	○グループでの意見交換, 全体への発表の要点は作品1と同じ。	
作品2の鑑賞(全体) (5分)		○作者(授業者)は生徒の疑問・質問に答え, 表現や鑑賞の多様性を確認する。
まとめ(5分)		
準備物 生徒:筆記用具 教師:美術資料(秀学社), 作品図版, ワークシート, オンラインシステム		

1. 作品名『 _____ 』 作者名 _____

設置場所 _____ [1993年, 石・金属 74.0 × 18.0 × 高さ 3.5m]

(1) 作品の印象, 作者の意図や作品の意味, 表現の工夫など

(2) 作品を見て疑問に思ったこと, 作者に聞いてみたいこと

(3) 他の人の見方・感じ方でなるほどと思ったこと

2. 作品名『 _____ 』 作者名 _____

[2013年, 木・テラコッタ・金属 3.5 × 3.5 × 高さ 3.2m]

1. の(1)(2)(3)の項目に準じてまとめましょう

1. 準備

美術教室（図1）後方Aの位置に図2のワゴンを配置。ワゴンにはノートPCとビデオカメラをセット。ビデオカメラは、スタンドポールに取付。また、教卓付近の音を鮮明に拾えるようにワイヤレスマイクをB（教卓）に置く。ビデオカメラのマイクロHDMI端子から変換ケーブルを通してノートPCにUSB接続。PC側ではカメラは内蔵ではなく、USB接続のビデオカメラを選択。作家の岡本氏とはZoomで接続。カメラは教室前方に向け岡本氏に授業の様子を見せる。美術教室にWi-Fi環境あり。

2. 授業開始後

(1) 教室前のデスクトップPC（C）でPowerPointを使った作品紹介を電子黒板に映して、授業を始める。

(2) 生徒がワークシートに書き始めるタイミングでワゴンをDに移動。ノートPCと天吊りテレビをHDMI接続。ノートPCの映像（岡本氏）をテレビに映す（図3）。ビデオカメラは生徒に向け、こちらの様子を岡本氏に見せる。

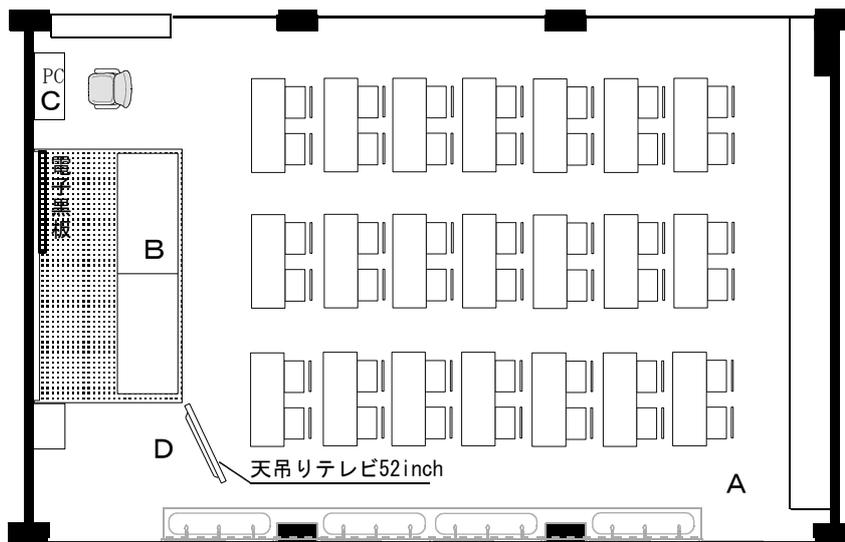


図1 美術教室



図2 ワゴン



図3 授業風景

実践上の留意点

1. 授業説明

本授業の工夫点は次の通り

①作品を制作した作家本人にオンラインで登場して頂いたこと。

これまでも電子黒板や書画カメラなどの ICT 機器については日常的に使っているが、今回のような形は初めてである。一週間前に接続テストを行い、当日の授業前にも確認していたが、実際にはトラブルがあり少し戸惑った。ちょうどグループ討議に充てていたタイミングなので、余裕を持って対応することができた。(ICT 環境は別紙資料を参照せよ)

②岡本敦生の作品を鑑賞する前に、鑑賞における「作品の見方」について、前時までにルネッサンス、中世、印象派、現代美術を概観し、日本の現代美術についても鑑賞して多様な見方を体験させていたこと。今回取り上げた岡本敦生のこの作品は大変分かりやすくまた親しみの持てる作品であると言える。

※ 時間が押したので作品 2 (授業者の作品) の鑑賞はできなかった。

2. 研究協議より

質) 前時までの鑑賞の授業はかなり盛りだくさんであるが、今日のようにグループ討議などをしたのかそれとも解説のみだったのか。

授) ほぼ一方的な解説。柳幸典の作品については、本日と同様のワークシートに書かせた。ただ、グループ討議や発表は行っていない。

質) オンラインの授業は今いろいろと模索している学校も多いが、作家の岡本氏とは事前にどのように連携されたのか。

授) 岡本氏とは面識があるので、お願いしたところ快く受けて下さった。事前に指導案を送り、本番 1 週間前にはオンラインの接続テストを行った。その折には、それまでの指導の経緯と当日の流れを説明した。

質) 授業の中で生徒がワークシートにどんどん記入していたのは何か特別な指導をしていたのか。また、鑑賞の授業の時どのような視点で対象作品を選んでいるのか。

授) これぐらいは書いて欲しいと用意した枠なので、おおよそは埋めるようにと指導している。作品の選定については、生徒が想像力を働かせれば物語が浮かぶであろうものを選んでいる。こちらが用意する設問に悩むような作品は選ばない。

質) ICT の機器が充実しているが予算はどのようになっているのか。

授) ほとんどは科研費で取得したものです。

3. 助言者より

・生徒たちの会話を聞いていると、円柱はいろんな角度に刺さっているが、何か法則か秩序があるに違いないとか、空港という場所だから多様な人たちが行き交う意味でいろんな素材が使われているに違いないとか、いい話し合いをしていた。

・作家の登場が、さらに鑑賞の授業を充実させた。岡本氏が言われていた移設について、生徒はどのように受け止めたのだろうか。美術作品のあり方とは何か、美術作品を環境の中心に据えるということにはなっていないと言う現実を残念に感じてくれたらいいなと感じた。

・美術作品を鑑賞するときに表現の意味とか意図は学べば理解できる。もう一つ必要なのはそこから何かを感じ取れるかということ。自分なりによさを見つけて感動できるということが大事。